

## 受領者投稿

## 助成によって広がる研究

九州工業大学 大学院生命体工学研究科 助教授 和田親宗  
(第11回受領者)

私は平成12年度に、「触覚を用いた視覚・聴覚重複障害者のための音響情報呈示装置の基礎研究」というテーマで、助成をいただいた。研究目的は、周囲環境の様々な情報を取得できない視覚聴覚重複障害者（盲ろう者）に対して、音に関する情報を触覚を利用して伝えるというものであった。例えば、少し離れたところから話し声がするとか、呼びかけに対しどの方向から返答が戻ってきているか、などがわかれば、たとえ介助者がすぐそばにいても誰かが近くにいることがわかるのではないかと考えたためである。

研究では、腰回りに着けた振動子によって音源方向や距離感を呈示するデモ装置の試作および、盲ろう者による評価をおこなった。当時、私は北海道大学・電子科学研究所の助手で、所属講座の研究費ではなく自分自身の研究費を、しかもかなり多額の研究費を持てたことで、自分自身に対し自信を持つことができた。

その後、新設された大学院生命体工学研究科の現職に、平成13年度から就くこととなった。生命体工学とは、文字通り生命体に関わる研究をおこなう目的で、従来の生体工学や生物学・環境工学・神経科学などを含む広範囲の研究領域を包含するべく創設された。

私は、その中で、ヒトの機能を工学的に代行する手法の研究開発をおこなっている。具体的には、障害者や高齢者のできないことを代行する装置を開発するために、ヒトに関する感覚特性や運動特性についての調査をおこなっている。

財団から助成をいただいた研究テーマは、直接ではないものの、現在おこなっている二つの研究へとつながっている。一つ目は、視覚障害

者に、障害物方向や障害物までの距離を触覚刺激を用いて知らせる研究である。二つ目は、手のひらの触覚を使って盲ろう者に情報提供をおこなう研究である。



私の夢は、当事者が一人ではできないことを、工学的手法により少しだけ手伝うことで、自分の力でできるようにすることである。この夢の実現のために、財団が私に対し、助成という投資をしてくださったのだと思っている。夢を実現し、社会に貢献することが、助成に対する感謝の具現になるのではないかと考えている。